



倶楽部からのご案内

電気施設関係見学会のご案内

今回は、「つくば」に並ぶ国家プロジェクトであるサイエンスシティ「けいはんな学研都市」の研究所をご案内します。

関西文化学術研究都市推進機構(精華町)「けいはんな学研都市」の推進財団の方から、都市建設の背景や現状についてご説明いただきます。

国際電気通信基礎技術研究所(ATR(精華町)けいはんな学研都市を代表する研究所であるATRの研究者からアンドロイド研究開発などの最前線の取り組みについて、説明をいただきます。

量子科学技術研究開発機構

関西光科学研究所(QST(木津川市)原子力研究開発)に由来する量子科学研究の先進医療分野への活用を目指し取り組む、小型がん治療装置(量子メス)の開発などの現状や未来についてQSTの研究者から説明をいただきます。

奈良市の「KOTOWA 奈良公園 Premium View」で洋食ランチをお楽しみください。

開催日 令和四年十一月三十日(水)【雨天決行】
集合 八時四十五分 中央電気倶楽部一階ロビー
行程 アロフト大阪堂島(旧堂島ホテル)前
：見学・食事・お買い物：アロフト堂島前と大阪駅前(十八時頃帰着予定)
定員 二〇名(同伴歓迎)先着順とします。
会費 会員(家族含む) 一、二、〇〇〇円
会員外 一五、〇〇〇円
(会費は当日(持参下さい)。

【食事の追加の飲み物は個人負担】
申込み 十一月二十四日(木)までにFAX、またはメール・電話で事務局(二瓶まで)お申し込み下さい。

メール [sampei@chuodenki-club.or.jp](mailto:sampe@chuodenki-club.or.jp)
TEL 〇六一六三四五一六三五(直通)
FAX 〇六一六三四五一六八七七
*開催日の前々日以降は、会費の半額をキャンセル料として申し受けます。

九月八日、当倶楽部ホールに最新プロジェクターを導入!

明るさ・解像度が 二倍以上に大幅アップ!

このたび、バナソニック(株)様のご協力を賜り、中央電気倶楽部ホールに高解像度のプロジェクターを導入いたしました。
明るさが六、〇〇〇ルーメンから一三、〇〇〇ルーメンへとこれまでの倍以上になり、スクリーン上の映像の美しさ・繊細さが大幅にアップしました。観客照明を減灯しなくても色彩は豊かで小さい文字もはっきりと見ることが出来ます。大規模な講演やセミナーなど、大画面映像が求められるご利用シーンには、新しいプロジェクターを備えた当倶楽部ホールを是非ご利用下さい。



服装規定について

当倶楽部は、会員制の社交倶楽部です。会館利用に当たっては、左記の服装の励行をお願い致します。

下記の服装は、ご遠慮いただきます。

NG

- 迷彩パンツ
- スニーカー
- スリッパ
- 作業服
- ジーンズ
- 襟なしシャツ
- ジャージ
- Tシャツ

上着: 背広、ブレザージャケット等を着用
シャツ: ワイシャツ、襟付のシャツ等を着用



屋上稲荷社

十一月のスケジュール

| | | |
|-----|---|--|
| 一 | 火 | 絵画部展示会(囲碁室前・十月二十八日～十一月四日) |
| 二 | 水 | 絵画部(水彩画)(B一〇号室) 社交ダンス教室(B一〇号室) |
| 三 | 木 | 文化の日 |
| 四 | 金 | 中央電氣俱樂部創立一〇九周年記念特別講演会 (十三時三十分～十五時十分・五階大ホール) 講演『経済・安全保障の視点から見る 我が国のエネルギー問題 ～ロシアのウクライナ侵攻以降の 世界のエネギー事情を踏まえて～』 キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹 杉山 大志 氏 |
| 五 | 土 | 撞球部秋季大会 |
| 六 | 日 | 青年会例会 |
| 七 | 月 | 写真部展示会(囲碁室前・十一月八日～十一月十八日) 社交ダンス教室(B一〇号室) |
| 八 | 火 | 写真部展示会(囲碁室前・十一月八日～十一月十八日) 社交ダンス教室(B一〇号室) |
| 九 | 水 | 社交ダンス教室(B一〇号室) |
| 十 | 木 | 午さん会(電社合同) 講演『江戸のジャーナリスト、葛飾北斎に魅せられて』 産経新聞社 客員論説委員 元産経新聞社 論説委員長 千野 境子 氏 |
| 十一 | 金 | 午さん会(電社合同) 講演『江戸のジャーナリスト、葛飾北斎に魅せられて』 産経新聞社 客員論説委員 元産経新聞社 論説委員長 千野 境子 氏 |
| 十二 | 土 | 電社幹事会(特別会議室) 囲碁部例会 |
| 十三 | 日 | |
| 十四 | 月 | |
| 十五 | 火 | ゴルフ部例会(伏尾GC) 社交ダンス教室(B一〇号室) |
| 十六 | 水 | 社交ダンス教室(B一〇号室) |
| 十七 | 木 | 写真部撮影会(二尊院) 午さん会 講演『米中間選挙後の国際情勢を読む』 株式会社双日総合研究所 チーフエコノミスト 吉崎 達彦 氏 |
| 十八 | 金 | 午さん会 講演『米中間選挙後の国際情勢を読む』 株式会社双日総合研究所 チーフエコノミスト 吉崎 達彦 氏 |
| 十九 | 土 | 囲碁部指導日 初・中級者向け囲碁教室(十時～十二時・二〇五号室) |
| 二十 | 日 | |
| 二十一 | 月 | |
| 二十二 | 火 | |
| 二十三 | 水 | 勤労感謝の日 |
| 二十四 | 木 | |
| 二十五 | 金 | 午さん会 講演『最近の金融経済情勢と先行きの見通し』 日本銀行 大阪支店 副支店長 村國 聡 氏 |
| 二十六 | 土 | いなづま旬会(二二七号室)(吟行・万博記念公園) 将棋部例会・指導日 |
| 二十七 | 日 | |
| 二十八 | 月 | |
| 二十九 | 火 | 評議員会(二二四号室) 理事会(二二三号室) |
| 三十 | 水 | 電気施設関係見学会(国際電気通信基礎技術研究所 他) 社交ダンス教室例会(B一〇号室) |

※予定変更の場合は改めて連絡いたします。

目次

11月のスケジュール — 2
12月の予定
創立109周年記念 — 4
特別講演会案内
写真 — 5
講演録 — 6～15
倶楽部だより — 16～17
同好会だより — 18～19
倶楽部からのご案内 — 20

創 立：大正3年11月
建物(本館)：昭和5年竣工
会 員 数：1,451名

法人指定会員 1,204名
個人会員 247名
(R.4.10.未現在)

十一月の午さん会講演

- ◎十一月四日(金) 休会
- ◎十一月十一日(金)
講演『江戸のジャーナリスト、
葛飾北斎に魅せられて』
産経新聞社 客員論説委員
元産経新聞社 論説委員長
千野 境子 氏
- ◎十一月十八日(金)
講演『米中間選挙後の国際情勢を読む』
株式会社双日総合研究所
チーフエコノミスト
吉崎 達彦 氏
- ◎十一月二十五日(金)
講演『最近の金融経済情勢と先行きの見通し』
日本銀行 大阪支店
副支店長
村國 聡 氏

中央電氣俱樂部創立一〇九周年記念特別講演会

- ◎十一月四日(金)
講演『経済・安全保障の視点から見る
我が国のエネルギー問題
～ロシアのウクライナ侵攻以降の
世界のエネギー事情を踏まえて～』
キヤノングローバル戦略研究所
研究主幹
杉山 大志 氏

十二月の午さん会講演(予定)

- ◎十二月二日(金)
講演『わが国のサイバーセキュリティ能力の
現状と課題について』
NTT サイバー専門家
松原 実穂子 氏
- ◎十二月九日(金)
講演『面白いほどスッキリわかる！
サイエンスライター
気象予報士
世界の気候と天気のおもしろい』
今井 明子 氏
- ◎十二月十六日(金)
講演『最近の電力供給とその背景について』
関西電力株式会社
エネギー・環境企画室
エネギー・環境政策グループ
チーフマネージャー
辻森 耕太 氏
- ◎十二月二十三日(金) 休会

午さん講演会にご出席のおすすめ

毎週金曜日の午さん講演会は、下記の要領で開催いたしておりますので、多数ご出席ください。

出席資格：倶楽部会員およびご同伴の方、会員会社の社員の方

時 間：12時～13時40分頃
(講演12時40分～13時40分)

場 所：3階大食堂

食 代：一人2,200円(税込)

予 約：不要

着 席：自由着席



「ダルマー人占め」
個人会員 山本 寿美江 さん 撮影

撮影者のひと言

昨年写真部で勝尾寺に行きました。いつもは、海外の人々、観光客、祈願の学生達で賑わう名所ですがやはりコロナ禍の為か、参拝客は少なかったです。それ故、私達カメラマンには、ラッキーでしたかな……
美味しい食事をして、写真を写す楽しい会です。
皆さま入部されませんか？
特に、女性の方々がいますか？
因みに、この写真はスマホで撮りました。

(写真部員 山本 寿美江)

倶楽部創立一〇九周年記念特別講演会のお知らせ

日時 十一月四日(金) 十三時三十分～十五時十分
会場 五階 大ホール

記念講演

『経済・安全保障の視点から見る
我が国のエネルギー問題
～ロシアのウクライナ侵攻以降の
世界のエネルギー事情を踏まえて～』

講師

キヤノングローバル戦略研究所
研究主幹 杉山 大志 氏

(お願い)

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、当日ご出席されます場合はマスク着用など感染予防に最大限ご配慮いただきますようお願いいたします。

なお、入口での検温や会場のお席の間隔を広く取る等対策をさせていただきますので予めご了承下さいますようお願いいたします。

※事務局、貸室、娯楽室等は、通常どおりの営業となっております。



鎌倉歴史文化交流館
学芸員

山本 みなみ 氏

『北条義時に見る鎌倉武士とは』

山本 みなみ 氏 プロフィール

| | |
|----|---|
| 略歴 | 1989年 岡山県生まれ 2011年 京都女子大学 文学部史学科卒業 13年 京都大学大学院 人間・環境学研究所 修士課程修了(2020年 博士号取得) 18年 現職 2022年1月~3月 北条氏展を担当 |
| 専門 | 鎌倉時代の政治史・女性史 |
| 連載 | 隔週木曜日、朝日新聞にて 「山本みなみの鎌倉からの史(ふみ)」を連載中 |
| 著書 | 『史伝 北条義時』(2021年 小学館) 『史伝 北条政子』(2022年 NHK出版新書) |

はじめに

大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の主人公となった北条義時ですが、承久の乱で勝利したことが彼の歴史上のエポックでした。

承久の乱で皇室に勝ち、後鳥羽上皇をはじめ、院や天皇を流刑に処すという彼の事績について、近世以降、天皇を配流するとは何事だ、義時は稀代の逆臣だという評価がなされるようになります。同時に、義時の生きた時代は源頼朝、頼家、実朝と

「北条義時をとりまく人物関係」

義時の生涯を語るとき、一番影響力のあったのが六歳上の政子、そして父の時政です。政子と義時の母親は伊東祐親の娘であり、祐親は義時、政子からみれば祖父になります。

また、義時には阿波局(あわのつね・作中では実衣)という妹がおり、彼女は頼朝の弟の阿野全成(あのぜんじょう)と結ばれます。姉の政子は頼朝と結婚しますから、北条と源氏は二重の姻戚関係を結んでいたことになります。周知の通り、頼朝と政子のあいだに頼家、実朝という男児が二人生まれ、のちに将軍になる。そして、それを義時が支えていくわけです。

義時の最初の妻は妹と同じ名前の阿波局です。阿波局とのあいだに長男・泰時が生まれ、泰時はのちに北条氏の嫡流となります。この阿波局については、御所の女房であったことしかわかりません。おそらく身分が低かったため、正妻ではなく、妾として迎えた女性ではなかったかと考えられます。

きちんと、正妻として迎えたのが比企(ひき)一族の娘、姫の前(作中では比奈)です。彼女とのあいだ

いう源氏将軍が三代で途絶えてしまい、北条氏が権力を握っていくというときでしたから、義時は将軍家から政治の実権を無理矢理奪った篡奪者であると評価され、陰險な策謀家だという、どちらかというとダークなイメージにつながっているわけです。

北条氏の本拠地は伊豆半島の付け根に位置する、伊豆国(いずのくに)北条です。義時はそこから鎌倉に出て、頼朝をずっと支えました。承久の乱では朝廷をも武力で打ち負かす。

もうけたのが名越朝時と北条重時の二人の男児です。義時は姫の前とも別れ、最後に伊賀の方という伊賀一族の女性を娶います。彼女とのあいだにも北条政村、北条実泰と二人の男児をもうけます。

「源頼朝と北条氏のかかわり」

平治の乱で頼朝の父、源義朝が討ち死にすると、頼朝は平家に捕らえられ、一一六〇年三月、十四歳のとき伊豆国へと流されました。この三年後、義時は生まれます。父・時政二十五歳のときの子で、六歳年上に姉・政子がいました。

北条氏は、系統としては桓武天皇の血を引き、伊勢に所領を持つ伊勢平氏の庶流にあたり、伊豆国の国衙(こくが)で行政実務をする在庁官人を務めていました。それ以前は、軍事貴族として京都の治安維持をしていた一族でした。そこに生まれた時家が伊豆国へとやってきて、在庁官人をして一族の婿に入り、ここに北条氏が成立したと考えられています。したがって、他の東国武士たちよりも京の貴族たちとの人脈が豊富で、都の情報もすぐに入ってくる

す。これにより朝廷よりも武家の方が優位に立ち、以後、室町幕府、江戸幕府と武家中心の歴史が続く。ですから義時は、かなり大きな役割を果たしたことになります。

では、なぜ義時は伊豆から出て鎌倉幕府の中心的人物となり、権力者へと昇りつめることができたのでしょうか。その理由を探りながら、義時の生涯をみていくことにします。そしてそのなかで、鎌倉武士とはどういう存在だったのかということにも触れたいと思います。

ようなネットワークを持つ一族ではなかったかといわれています。

本拠地は伊豆半島の付け根の平野部でした。農業生産力の高い、水路、陸路の便にすぐれた場所に本拠地を置いています。

頼朝が伊豆に流されたときに監視役となったのが在庁官人の伊東氏と北条氏です。頼朝は二十年間の流人生活を送りますが、流人とはいえ、わりと自由な生活が保障されています。たとえば伊東祐親の娘、八重とのあいだに男児が生まれていて、恋愛も楽しんでいきます。しかし子をもうけた、それも男児だったことに祐親が激怒し、流人である頼朝と監視役である祐親の娘が夫婦の関係になつて、それを平家から咎められたらどうするのだという理由で二人の子を殺し、さらに、祐親は頼朝の命も狙います。このときに頼朝は北条氏を頼って逃げ出し、政子と出会うことになります。

「平家打倒の機運と頼朝の挙兵」

父の時政が、頼朝と政子の結婚を認めたことから、打倒平家への挙兵が始まっていきます。きっかけは

一一七八年に起きた治承三年の政変です。平清盛は後白河法皇を幽閉して院政を停止し、思い通りに政治を仕切るようになります。後白河法皇に仕えていた側近、近臣たちを勝手に逮捕したり、所領を没収したりしました。さらには、後白河法皇の皇子、以仁王の所領までも没収してしまう。激怒した以仁王は挙兵を決め、全国の源氏に「今こそ立ち上がるべき。平家を討て」と号令します。

源氏一門の棟梁的な人物であり、清盛と親しく、頼朝にも目をかけている源頼政が伊豆国の知行国主であったこともあり、頼朝は以仁王の令旨に即応せず、様子を窺っていました。ところが、以仁王と共に挙兵した頼政が討死してしまったため、知行国主が平時忠に変わります。「平家にあらずんば人にあらず」といった人物として知られる、清盛の妻、時子の弟です。時忠自身は京にいて、伊豆には家人である山木兼隆を目代（代理）として派遣します。

こうして、各国で平家の家人が優遇されるようになると、それまで後白河法皇の家人としてそれぞれの国で動いていた武士たちの不満は、当

かがえるエピソードです。

「鎌倉殿の体制と
義時が築いた北条氏躍進の礎」
義時はその後も頼朝を支え続けていくわけですが、一一九九年一月、頼朝は急死します。『吾妻鏡』によれば、相模川の橋供養の帰りに落馬して亡くなった、享年五三、となっています。そこで、長男の頼家を次の將軍、すなわち鎌倉殿に据えるのですが、何の準備もなくいきなり鎌倉殿になってしまった。まだ十八歳で、政治の経験もない。そこで、有力な御家人たち十三人が選ばれ、集団で頼家を支えていくことになりました。これが、大河ドラマのタイトルにもなっている「鎌倉殿の13人」というわけです。この十三人は、「文筆吏僚」である事務官たちと「東国武士」によって構成されていました。草創期から頼朝を支えてきた有力御家人たちが名を連ねていますが、唯一親子で入っているのが北条氏です。義時は、六十代、七十代のなかで、頭ひとつ抜きん出て若い三十七歳でした。この体制は、十三人のうちの数名が集まり、最終的な判断を頼家に

然のように高まります。やがて、冷遇への反発から、自分たちの所領、権益を守るためには立ち上がらなければならぬという動きへとなっていく、彼らは徐々に源氏の御曹司である頼朝の下へと集まるようになります。

一一八〇年八月、いよいよ頼朝が挙兵。最初に討ち取ったのが平家の家人、伊豆の山木兼隆です。山木討伐に勝利した頼朝勢は東に向かい、今の小田原辺り、石橋山で平家の大軍とぶつかります（石橋山の合戦）が、平家軍は大庭景親、梶原景時をはじめとする三千騎。これに対し頼朝軍はわずか三百騎。さらに後方から、平家方の伊東の軍勢が押し寄せている。圧倒的な兵力差の前に、頼朝軍はあえなく敗北します。

頼朝の軍勢が三百騎しかなかったのは、ひとつには、合流するはずだった三浦氏が川の氾濫により渡河できず、頼朝軍に加わることができなかったことがあります。頼朝軍と合流できないと判断した三浦氏は、本拠地である三浦半島へと帰っていく途中、鎌倉の由比ガ浜で畠山重忠率いる平家軍と激突し、最終的には三

仰ぐというもので、義時は、ここから政治家としての第一歩を踏み出していきます。ただし、翌年には梶原景時が失脚し、六十五歳の安達盛長、七十三歳の三浦義澄も病没する。すぐにメンバーが少なくなり、長年続いた体制ではありませんでした。

したがって、二代將軍頼家の船出は、うまくいったとはいえません。さらに、不幸が続きます。頼家自身が病に倒れてしまうのです。病気になることをきっかけに、北条家と比企能員（ひき・よしかず）の対立は避けられぬ状態となっていくます。

比企能員は夫婦で頼家の乳母（めのと）、つまり育ての親を務めていた一族で、能員の娘である若狭局は頼家とのあいだに男児、一幡（いちまん）をもうけています。頼朝からみれば初孫を産んだことで、比企氏は頼家の次の鎌倉殿は一幡だといつもので育てていたと思えますし、頼家も妻の実家である比企一族を大切な存在だと考えていました。比企一族を取りまとめていた比企尼（ひきのあま）は頼朝の乳母であり、頼朝も苦しかった流人時代を支えてく

浦氏の居城である衣笠城で戦うことになります。このとき、三浦氏の族長であった三浦義明は三浦義澄、三浦義村など一族を逃がしたのちに、ひとりだけ城に残って討死します。義明の判断により、一族の大半は生き延びることができました。このことは覚えておいてください。

一方、石橋山で敗れた頼朝は、箱根の山中をさまよった末、船で安房国に渡り、千葉氏や上総氏を味方に引き入れ、さらには畠山氏も誘い込みながら、石橋山の合戦から二か月後、鎌倉に入ります。義時も鎌倉に入ります。ときに十八歳の若武者でした。

鎌倉に入った翌年、頼朝の寝所を警護する者、つまり一番油断していきるときを守ってくれる本当に信用できる十一人が選ばれます。選定条件のひとつは、武芸に秀でている人。もうひとつは、隔心（かくしん）なき者。すなわち信用できる人のことです。『吾妻鏡』によれば、このとき家子専一（いえのこせんいつ）、つまり御家人の筆頭として選ばれたのが北条義時でした。頼朝から信頼のおける人物だとされていたことがう

れた恩ある一族として比企能員を重用していました。しかし、肝心の頼家が頼朝の没後わずか四年、若い身でありながら病気になるため、想定よりも早く、三代將軍となる次の鎌倉殿を選ばなければならないという話になってきたわけです。

このとき、六歳の幼い一幡を鎌倉殿にするのか、それとも頼朝の次男であり、頼家の弟である十一歳の千幡（のちの実朝）に継がせるのかというところで、將軍の座を巡って北条氏と比企氏が対立します。当然、頼家と比企一族は一幡を推し、北条一族は千幡だと言い張る。千幡の乳母は阿波局と阿野全成ですから、北条一族としては大事に育てている千幡を將軍に推すのは当たり前のことです。

一番たいへんだったのは義時だったと思えます。というのは、妻の姫の前は比企一族の女性ですから、北条と比企の対立がここまで大きなものとなれば、結婚生活を続けることはできず、離婚することになってしまいました。

さらには、妻方の一族である比企氏を討つことになります。時政が比

企能員を自邸に招き入れて騙し討ちで殺すと、義時は軍勢を率いて比企一族が一幡とともに立て籠もる小御所に攻め込みました。

ポイントは、それを政子が命じたことです。頼朝が亡くなったあと、政子は頼朝が持っていた権限を継承しています。したがって、北条一族だけではなく、政子の命に従って他の御家人たちも比企討伐には動かざるをえなかったわけです。

この結果、北条氏は勝利し、比企一族は滅ぶ。一幡も、このときは逃げ出しますが、二か月後に義時の手下によって殺害されます。頼朝の孫を、義時は殺してしまつたのです。

さて、実朝（幼名・千幡）は三代將軍となります。ここで歴史の皮肉というべきでしょうか、病床に伏し、危篤だった頼家がまさかの回復。しかし、すでに実朝が將軍となつていたので、頼家を鎌倉に置いておくことはできず、彼を伊豆の修善寺に幽閉したのち、義時は手下を差配し、頼家までも殺害します。頼家と一幡親子の殺害に極めて深く関わり、自分の手を汚しながら、義時は北条氏躍進の礎を築きあげたわけです。

が、娘婿である平賀朝雅の擁立です。しかし、この画策を察知した義時と政子は、たとえ父であっても許すことのできない暴挙だとして、実朝の身柄確保を命じ、その上で時政を出家・追放します。しかし、子が親を追放したことが公になれば、政子と義時の姉弟は親不孝者の烙印を押され、御家人たちの信を失ってしまう。それでも父を追放しなければならぬ。さて、どう処理したらよいものだろうか——。この難題の解は、あくまでも將軍の命令だとして、時政に引退を迫り、出家をしてもらうことでした。時政も自身の擁立した將軍実朝の命令に従い、引退をします。御家人たちの信も、これにより失わずにすみました。政子・義時姉弟が政治家として優れていたことをあらわす事件だったと思います。

父時政を追放したとき、義時は四十三歳。ここから義時は政治の表舞台に出てくるようになり、北条氏の地位を確固たるものにしていくのですが、対立する勢力がありました。有力御家人の和田義盛です。頼朝の時代から活躍し、將軍実朝の信も厚い、侍所別当として御家人たちを統

「父・時政の追放」

この頃まではうまくいっていた時政・義時親子の関係は、やがて悪化していきます。きっかけとなったのが畠山重忠の事件です。これは北条一族内での母親の違いが関係していて、政子、義時、そして畠山重忠に嫁いだ娘は、いずれも時政の先妻の子です。その後、時政は牧の方を後妻に迎え入れ、男児ひとりと多くの女兒をもうけるのですが、この先妻派と後妻派は対立していて、畠山氏を滅ぼすことでさらにそれが悪化していきます。

畠山氏討伐に登場する平賀朝雅という武士は、時政と牧の方の娘婿にあたり、京都の治安を守る京都守護として上洛していました。武蔵国の支配をめぐり、畠山氏と対立していた朝雅は、義母である牧の方に「畠山重忠は謀反を企んでいるようだ」という嘘の報告をします。真に受けた牧の方は時政に「重忠を討て」と焚き付け、時政も義時と時房、二人の息子に重忠討伐の話を持ち掛けます。重忠が清廉潔白で誠実な人物であることを知る義時と時房は、彼は謀反を企てるような人間ではない、

制していた人物です。

一二一三年、信濃国の武士、泉親衡（いずみ・ちかひら）が謀反を企んでいることが発覚します。義時を殺し、將軍実朝をその座から引きずり下ろして頼家の遺児・千寿丸を擁立しようというものです。これは未然に終わったのですが、問題は関わった人たちです。北条氏に滅ぼされた恨みを持つ比企氏の残党だけでなく、和田一族が関与していたことが発覚します。これを受けて和田義盛は將軍実朝に詫言の弁明を入れ、実朝は許しましたが、命を狙われた義時は許さなかった。泉親衡の乱への厳しい処罰を強く求め、和田一族を討つべしと、鎌倉の御所で評議にかけます。この話を耳にした義盛は、いち早く実朝の身柄を確保し、官軍として義時と対峙せねばならないと、急ぎの挙兵に踏み切ったのです。

しかし、義盛の挙兵は失敗し、義盛は負けてしまいます。読み違いは、三浦義村の裏切りでした。三浦氏と和田氏は同じ三浦一門ですが、この三浦一門の族長は嫡流の義村になります。しかし、義盛は義村よりも年上で、侍所別当という要職にも就い

考えられないと反対しますが、父親の言うことに従わざるをえず、最終的には義時が大将として重忠討伐に向かい、畠山氏を滅ぼすことになりました。

この畠山氏討伐のとき、最も活躍したのが三浦義村です。先ほど、三浦と畠山の戦いについて触れましたが、衣笠城で義明が討たれた恨みを三浦一族は長年抱き続けていました。その報復のチャンスとして討伐に参戦し、最も活躍したのです。恨みを数代にわたって継承していく、鎌倉武士の執念深さがうかがえるエピソードです。

畠山氏を滅ぼしたあと、重忠は謀反など企んでいなかったことが明らかになります。というのも、謀反を企んでいたのなら大軍で鎌倉に押し寄せてくるはずなのに、戦いのとき、重忠はわずかな手勢しか連れていなかった。これは、何も計画していなかった証だとして、畠山が謀反を企んでいるとした時政の話は嘘だったことが皆にばれてしまうのです。

時政は信用を失い、孤立してしまいます。ここで、時政が状況を一変させるための切り札として考えたの

ている。実力も義村よりは上です。義村にしてみれば、族長権を脅かす義盛は脅威なのです。義盛が挙兵した際、義村は最初、あえて味方の振りをしました。そして、土壇場になって義盛を裏切り、和田氏を滅ぼします。この結果、義時側が勝利し、義盛が就いていた侍所別当の地位を義時が引き継ぎます。

「実朝の暗殺と尼將軍のはじまり」

一二一九年正月の雪の降る日、右大臣に任じられた三代將軍実朝は、鶴岡八幡宮に参詣し、そのお礼と報告をしていました。この式典の最中、頼家の息子・公暁（こうぎょう）によって実朝は暗殺されるのですが、実朝暗殺については義時が公暁を唆して実朝暗殺に踏み切らせたという「義時黒幕説」が古くからあります。

鎌倉幕府が編纂した『吾妻鏡』には、式典で御剣役をするのは義時であったことが記されています。御剣役とは、太刀を持って、実朝に帯同する役目です。ところが、八幡宮に到着したところで体調不良を訴え、義時は自邸に帰ってしまいました。

代理を務めたのは源仲章。彼は義時と誤って公暁に殺されてしまった、というふうには『吾妻鏡』は伝えていません。

義時が式典の場にいなかったのは、完璧なアリバイがあることから、逆に怪しいぞというわけで、ここから「義時黒幕説」が語られるようになりません。

天台座主の慈円が書き残した『愚管抄』という別の歴史書にも、義時は御剣役であったと記されています。ただし、その後の話が『吾妻鏡』とは違うのです。

『愚管抄』によれば、義時は鶴岡八幡宮の本宮にのぼる石段の下で待機するようにと実朝に言われ、本宮には同行しなかった。実朝は式典を終え、石段をおりていたところで、躍り出てきた公暁により殺されてしまふ。さらに公暁は、松明を掲げながら実朝を先導していた仲章を義時だと思いつけ、殺してしまふ。

『愚管抄』に従えば、義時は自邸に帰ってなどおらず、事件現場に遭遇したことになります。さて、『吾妻鏡』と『愚管抄』、どちらの史料を信じればよいのか、となってしまう。

和泉、河内、摂津の五国に加え、東海道、東山道、北陸道、山陰道、山陽道、南海道、西海道の七道の諸国に北条義時追討の宣旨を発し、全国から約千七百騎の兵が集まったとされています。

四日後の十九日、後鳥羽院が挙兵の準備をしているという報が早くも鎌倉に入りますが、後鳥羽院は一計を案じていました。下人の押松に宣旨を託し、鎌倉にいる義時以外の御家人たちに配るよう命じていたのです。後鳥羽院としては、宣旨をみた御家人たちは朝廷に味方し、義時を討つだろう。そうなれば、鎌倉幕府は自分の思い通りになると思っていた策でした。

ところが、肝心の押松が、鎌倉に入ったところで捕まり、配るはずだった宣旨がすべて押収されてしまったため、鎌倉で内部分裂を起こそうとする後鳥羽院の企みは頓挫し、この時点で勝敗はある程度決まってしまうました。

後鳥羽院の挙兵に鎌倉が騒然とするなかで、尼将軍である北条政子が御家人たちを集めて演説を始めます。「長女の大姫、夫である頼朝、長

いますが、『愚管抄』を残した慈円は、右大臣拝賀の式典に参加した貴族のひとり、平光盛から聞き取った上で実朝暗殺のことを書いていますから、史料としての信ぴょう性はかなり高くなります。

したがって、目の前で起きた將軍暗殺という大事件をその現場にいて防げなかったことは、義時の大失態となるので、それを隠蔽するために『吾妻鏡』では、義時はその場にいなかったという創作を行った可能性が考えられます。大河ドラマの時代考証の先生も、黒幕はおらず、親を殺されたことによる恨み、仇討ちとしてあくまでも個人的な公暁単独の犯行だったという公暁単独犯説をとっています。

実朝が殺されたことで、またも次の鎌倉殿を誰にするのかという問題が生じます。

話は実朝が暗殺される前年にさかのぼりますが、母親の政子が上洛し、次の將軍の相談をしています。実朝に子どもがおらず、継ぐ者がいなかったからですが、このとき、政子は後鳥羽院の皇子を將軍として迎え入れたいと申し出て内諾を得ています。

男の頼家、そして次男の実朝の四人に先立たれた。今回、弟の義時まで討たれてしまえば、わたしは五回ものつらい思いをすることになる。おまえたち、それでよいのか。」まず情に訴えることから、政子は話を始めました。その上で、頼朝の恩は海よりも深く、山よりも高いはずだと説きます。さらに、政子の演説は続きます。「私は若いときから物事をハッキリといってきた。だからおまえたちも院の側につくのか、それとも鎌倉の側につくのか、ありのままにいえ。今この場で決めよ。」

こういうふうには、考えるべきをあたえずにいわれてしまえば、御家人たちも「はい。もちろん鎌倉方につきます」となってしまうのではないかと思います。

政子の大演説によって幕府側は分裂することなく、一致団結して京方向けに動き合うことになりました。幕府軍は鎌倉を出発し、北陸道、東山道、東海道の三手に別れて京へと進撃します。

最初に京方とぶつかったのは尾張国の墨俣でした。結局、一万九千の兵しか集まらなかった京方に対し、

ます。ところが実朝が亡くなったあと、この約束の話を持ち出したところ、後鳥羽院に拒否されてしまうのです。後鳥羽院からしてみれば、將軍が暗殺されるような野蛮な地に皇子は送りたくないという不安もあつたでしょうし、親しくしていた実朝を易々と殺された幕府に対する恨み、怒りもあつたと思います。

そこで、話し合いの結果、摂関家の男児である三寅（みとら）が下向することになります。のちの四代將軍・九条頼経です。しかし、数えて二歳の子に政治ができるわけがありません。成長するまで政子が実質的な將軍となって差配することになり、ここに尼将軍が誕生します。鎌倉幕府は、尼将軍政子を執権の義時が支えていくという政治体制に移っていきます。

「承久の乱の勝利」
後継を巡って後鳥羽院ともめたことにより、院と義時の関係は悪化します。そのなかで承久の乱が勃発するわけです。

一二二年五月十五日、後鳥羽院は五畿内諸国、つまり大和、山城、

十九万もの幕府軍が圧倒的な兵力の差をもって圧勝しています。幕府軍は一気に畿内へ突入し、京方は動揺しました。墨俣敗北の報を聞いた後鳥羽院も慌て、新しく琵琶湖の南、瀬田の唐橋に三千騎を配置。対する幕府軍は、義時の弟である時房を大将として瀬田に向かいます。義時の息子、泰時はここから別れ、宇治川へと向かいます。

瀬田では、唐橋で戦が繰り広げられました。江戸時代成立の「承久記絵巻」には、京方が橋を使えないようにに橋板の一部を落とし、幕府軍を迎え撃とうとしている様子が描かれています。

橋が使えないとなれば攻め手としてはたいへん戦いづらくなり、幕府軍はかなり追い込まれてしまうのですが、そこは圧倒的な兵力差です。二日後に時房軍が勝利します。

宇治川でも同じような戦いが繰り広げられ、泰時率いる幕府軍は橋の攻略をあきらめ、浅瀬を使って背後から京方を攻める戦法をとります。これが奏功し、背後をつかれた京方の軍勢は総崩れ。ようやくの勝利をおさめます。しばしば、承久の

乱は幕府軍の圧勝に終わったといわれますが、死傷者数の記録をみればそうでもなく、京方の戦死者は二百五十五人、泰時軍は戦傷者百四十四人、戦死者九十六人と、幕府軍もかなりの犠牲を払っています。

瀬田と宇治で勝利した幕府軍はそのまま南と東の両面から京へ迫り、追討宣言が出てからちようどひと月後となる六月十五日、泰時と時房は京へと入り、承久の乱は終結しました。

後鳥羽院は自軍の武士たちを見捨て、すぐに追討宣言を撤廃して降伏。泰時は即座に戦勝報告の使いを走らせ、二十三日、鎌倉に勝利の報がもたらされます。義時は「今は思うことなし」といい、安堵の表情を浮かべたということが『承久記』という軍記物語に記されています。

「義時の最期」

承久の乱を勝利で乗り切った義時は、その三年後に亡くなります。ただ、病死、他殺、毒殺等々、その死は謎に包まれています。様々な説のなかで、わたしは病死説をとって

います。

北条氏が建立した称名寺の学僧・湛睿（たんえい）が書いた表白集のなかに、義時の四十九日の法要を行った際に使用した表白がみえています。この表白には、義時が亡くなる時の様子が記されており、これを『吾妻鏡』と照らし合わせると、脚気による足の痛みで立ち上がるのが難しく、床に伏しがちであった、そして亡くなったとするのが妥当だと考えています。

『吾妻鏡』では、脚気と暑気あたりによる病死としていて、亡くなる前日の様子も記されています。これを読み解くと、「日頃心身を病んでいたが、それほど深刻なものではなかった。それが今回、すでに危篤に陥ってしまった。そろそろ亡くなりそうだ。」「翌日、栄養失調と足のむくみの症状が出る脚気、そして暑さによって嘔吐を繰り返したことを原因として亡くなった」と解釈できます。

亡くなる直前に、義時は出家するのですが、最期の瞬間は安らかだったようで、念仏を数十回唱えたあと往生したとされています。これによってだけ討伐したときのように、信用を失うようなことをすれば、武士たちはついてこなくなる。そこに正当性があるかどうか重要で、正当性を重んじるのが鎌倉武士です。

加えて、当時は親権が絶対でした。その時代のなかで、義時は父である時政の追放問題で苦悩します。これをうまく乗り切ったところに、彼の政治家としての有能性があらわれていると思います。

一族内での対立もあり、裏切りもある。ただしそれは、鎌倉武士のあいだでは批判される行為でした。

さらには、畠山氏と三浦氏の一件のように、数代にわたって恨みを抱

り、義時は浄土信仰の持ち主であったこともわかります。

義時は死後、お墓である法華堂を建立してもらいました。その場所が重要で、頼朝の法華堂の東側に、義時の法華堂が建てられています。初代将軍である頼朝の隣に、将軍のいち家臣である義時の墓があるというのはすごいことで、尼将軍政子が差配したと考えて間違いありません。政子は義時を頼朝と並べて埋葬することで義時を権威化し、北条氏は将軍と並び立つような別格の存在であるということを目で見てわかるようにしたのだと思います。しかも、そのことに御家人たちも納得した。御家人たちも承久の乱で勝利して鎌倉の町を守った義時に一目を置いていたということが、このお墓の場所でもわかるような気がします。

さいごに

最後に義時の人物像と鎌倉武士についてまとめておきます。

よく「義時はどういう性格の人だったのか」と訊かれるのですが、明確に答えられるだけの史料が残念なく、

義時自身は、これまであまり注目されてきた人物ではありませんが、志半ばで亡くなった頼朝の偉業を継承し、武家政権の確立に心を砕き続けた。義時はそういう人であったというの、わたしの結論となります。

（令和四年六月十日）

午さん会講演抄録文責在記者

鎌倉武士については、「一所懸命」という言葉があるように、自分の所領（利益）を最優先に生きている人たちということが出来ます。そして、彼らにとって重要なのは大義名分です。時政が畠山氏を自分の思い込み

CLUB GRAF くらぶ・ぐらふ

○午さん会（7月8日）
『ウクライナ戦争と日本の安全保障』

川崎重工業顧問
前 統合幕僚長

河野 克俊氏



○午さん会（7月15日）

『日本沈没』を科学する』

ジオリブ研究所長
神戸大学海洋底探査センター
客員教授 巽 好幸氏



○午さん会（7月22日）

『能の種をまく』

能楽小鼓方大倉流 新作能狂言作家
伝統芸能企画制作（株）伝楽舎
代表取締役 上田 敦史氏



○午さん会（7月29日）

『電気の先に新しい世界を
〜二〇三〇年
社会実装に向けて』

関西電力送配電株 企画部
新規事業グループ 叶 拓礼氏



◎事務所移転案内

三機工業株式会社 関西支社
 移転先 千五四一・〇〇四一
 大阪市中央区北浜
 三・五・二十九
 日本生命淀屋橋ビル二十階
 電話 〇六・七一七六・七六三二
 FAX 〇六・六二二二・三〇六一
 業務開始日 令和四年十一月七日(月)

昭和電工マテリアルズ株式会社

西日本支店
 移転先 千五三二・〇〇〇三
 大阪市淀川区宮原
 四・五・四十一
 新大阪第二NKビル九階
 電話 〇六・六一五一・〇一〇〇
 FAX 〇六・六一五一・〇一〇一
 業務開始日 令和四年十一月十四日(月)

ダイキン工業株式会社

移転先 千五三〇・〇〇〇一
 大阪市北区梅田
 一・十三・一
 大阪梅田ツインタワーズ
 ・サウス
 (総合受付二十四階)
 代表電話 〇六・六一四七・三三二一
 業務開始日 令和四年十一月二十四日(木)

文化探究会見学会実施

文化探究見学会として、九月二十一日に奈良市の松伯美術館と奈良筆 あかしやを訪問しました。

松伯美術館の上村松園・松篁・淳之の展覧会で、下絵・縮図・素描など貴重な資料を本画と共に鑑賞することで、それぞれの作品に込められた強い思いを感じることができました。ランチは、旬の素材を使った懐石をAYAMEKANで味わいました。

午後からは、奈良筆 あかしやで、書家や専門家から高い評価を受けている奈良筆の作り方についての講和を聞きました。

秋の一日、無事に行程を終え、大阪に戻ってきました。

ご参加いただき、皆様ありがとうございます。ございました。



松伯美術館にて

◎会議、セミナー、ミニコンサート等に大ホール・会議室のご利用を!!

一〇〇年以上の歴史ある社交倶楽部、その会館の中のくつろぎに満ち、ゆつたりとした空間で、大切な会議やセミナー、講演会、展示会、ご商談、打合せに。また同窓会・OB会等の旧友との再会の場としてもぜひご利用ください。五階大ホールにはグランドピアノを備付けており、ミニコンサート会場として、そして、大スクリーンでシアター感覚のご利用とイベントにも多岐にわたりご利用頂けます。

当倶楽部は、交通の便も良く、低料金で十人程度からご利用が可能な大小二十三室の会議室とお稽古事にお使い頂けます和室三室、そして椅子席三三〇席の大ホールまでございます。(新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、現在は定員を減らしております。)

また、インターネットでのネット会議・セミナーもできます。専門スタッフが、会場設営、また機材のご利用説明を致しておりますので、安心してご利用ください。



(五階ホールのグランドピアノ)

ご利用後の会議室の消毒の実施も継続致しております。が、引き続きご利用の際には手指の消毒・マスク着用のご協力をお願い申し上げます。

電社会見学会実施

十月六日(木)電社会(代表幹事 猪谷勇三氏)が秋の見学会を開催し、「いのこの家」(猪谷工務店様事務所内)及び旧しろきた村・村長邸お茶室を訪れました。

「いのこの家」では、猪谷氏より下町町家の概要説明を受け、鰻重での昼食の後、もりけん氏のハローモニカ演奏、尾家伸子さん(たまゆらの会)の朗読を楽しみました。

その後お茶室(又生庵)へ移動し、ご主人の寺西様より「私が生まれた時から今のような建物で、正確なところは分かりませんが江戸時代後期からあるものではないかと思われま

す。阪神淡路大震災で茶室全体が歪んで困っているところを猪谷工務店さんに復元していただきました。」と説明されました。

マンションと住宅

に囲まれた小さな森の中にあるお茶室に心が洗われた思いがした一日でした。



又生庵にて

◎会員増強にご協力をお願いいたします!!

会員の皆様には、会員増強にご協力いただきありがとうございます。

当倶楽部の発展のためには、会員企業の皆様そして個人会員の皆様の新入会員のご紹介が何よりも大切です。

「明るく、親しみのある倶楽部」として会員皆様に倶楽部ライフを楽しんでいただき、大切な交流の場として活用いただけるよう事務局一同頑張つてまいりますので、何卒お力添えのほどよろしくお願い致します。

ご入会希望の方には、事務局がいつでもお伺いし説明いたしますので、ご紹介方よろしくお願いいたします。

クールビズ終了のご案内

クールビズは十月三十一日(月)をもちまして終了いたしました。ご協力の程ありがとうございました。

写真部撮影会

園田競馬場で実施

十月十三日(木)に写真部は「園田競馬場」で撮影会を開催しました。園田競馬場は阪急園田駅の近くで、伊丹空港の裏にある、ローカルで古い競馬場ですが、華やかな中央競馬とは違い、独特の魅力がある競馬場であり、関西圏では最も馬を近くに感じる競馬場です。

騎手同士の駆け引きが盛んな向正面から、三〜四コーナーでの競り合いでのシャッターチャンスをもに出来るかが勝負です。撮影会を前後して、食堂街の店で一杯飲みながら、写真談議に花を咲かせました。



園田競馬場にて

図書だより

二階図書室では、左記の図書を新たに収蔵いたしましたので、貸出等のご利用をお待ちしております。

◎寄贈図書

「九十路余話」
 ご寄贈 個人会員 古谷 昭雄 氏
 令和四年十月四日

◎絵画部(水彩画)教室

十月度(五日・水曜日)の画材は、「人物・モデル」でした。今回は十一月二日(水)「静物・風景」です。

◎囲碁部 例会(令和四年十月八日)

成績
三勝 九段 宮田 幸隆 君
二勝 八段 山田 進 君
〃 四段 水島 健一 君
〃 三段 田中 泰 君
(参加者 七名)

(次回例会は十一月十二日(土))

◎将棋部 例会(九月二十四日)

成績
三勝 六段 井上 清志 君
二勝 五段 楠本 光秀 君
(参加者 六名)

(次回例会は十一月二十六日(土))

◎第二七回 中央電気倶楽部 社 懇親ゴルフ競技会

(令和四年十月十九日 晴れ
参加人員 三十七名
清交社 二十四名
中央電気倶楽部 十三名
於 宝塚GC)

団体優勝 中央電気倶楽部
参加人員の上位五〇%の平均ネット
中央電気倶楽部 平均ネット七四・三二
清交社 平均ネット七四・六八

(今回は、第五五六回例会)

令和四年十一月十五日(火)

伏尾GC

◎撞球部 例会(令和四年十月一日)

成績
優勝 雑賀 幹人 君
二位 島津 二郎 君
三位 上田 豊治 君
四位 籠谷 勇 君
五位 吉川 尚美 君
(参加者 十四名)

・優勝コメント

今回優勝できたのは、撞球部の高持ち点の方々から、日頃の練習の中で色々アドバースを頂き、それが身につけてきたものと考えています。

以前は、強いキュー出しであったがために手球、的球がバラバラになっており、またまった得点となっていない感でしたが、これを修正し、キュー出しはゆつくり、水平に真っ直ぐ加速させながら撞き出す様にしました。これは易しそうで難しく身体が覚えるまで中々でした。優勝の勝因は、これを極力意識しながら集中してやったからだと思います。

今回は三勝した方が私を含めて四人いましたが、私はこれに加えて一つの引き分けがあり幸運にもこれがポイント計算となり優勝に繋がったと思われれます。

日頃アドバースを頂いた高持ち点の方々及び、対戦してくださった方々に感謝致します。有難うございました。

(次回例会(秋季大会)は 十一月五日(土))

俳句部だより

俳句部展示会を開催
俳句部(いなづま句会)は十月十四日(金)より二十六日(水)まで西館囲碁室前で展示会を開催致しました。
たくさんの方々にご鑑賞いただきましてありがとうございました。俳句部員一同感謝申し上げます。
今後とも良い作品を詠んでまいりますので今後ともよろしくお願い致します。
また、新入部員も募集しておりますので、興味のある方は入部お待ちしております。



いなづま句会 作品展示会

◎俳句部

第八百四十二回 いなづま句会
俳誌「かつらぎ」主宰 森田純一郎先生指導
令和四年九月十七日
兼 題 当季雑詠五句

選者 吟

柴又の帝釈天の水澄める
「労働者諸君」寅言う町の秋
朴らしき葉を踏み秋の空見上ぐ
園広し名知らぬ草の花数多
酔ふほどに蘊蓄増ゆる夜長かな

いなづま句抄

- 菊の酒巫女は花びら散らしくれ 富山 勝幸
○土手行けばカンナの花の燃えにけり 野尻 弘輔
○雨の萩狭き参道狭めをり 東代 舞
○観覧車月見の芒くくりあり 広田 祝世
○流れ星天窓過ぐる包泊り 出店智恵呼
○溝蕎麦のひろがり瀬音くもりぬ 奥村 恵子
○衛星の横切るらしや星月夜 友岡 淑子
○はたと止む夜のロビーの作り滝 前野美枝子
○人絶えし髭の渡しに昼の虫 難波 正行
○雑草に覆ひかぶさる萩の花 留岡 寛
○経上げる庭で鳴き出す法師蟬 木下 貴友
(○印選者選)

(注)

「労働者諸君」(ろうどうしやくん)・・・映画「男はつらいよ」の中で、寅さんが言う名セリフ

菊の酒(きくのさけ)・・・季語「重陽」の傍題で、九月九日「重陽の節句」に菊の花を浮かべて呑む酒で、中国の陰陽五行説に由来する(季語)

包(パオ)・・・モンゴルなど、遊牧民の使うテント状の住居のこと

溝蕎麦(みぞそば)・・・溝や水路の辺りに群生して生える草花で、花が蕎麦の花に似ている(季語)

作り滝(つくりだき)・・・人工的に庭園などに作られた滝のこと(季語)

髭の渡し(ひげのわたし)・・・旧西国街道の武庫川の渡し場があり、近くの茶屋の主人の顔になんで「髭の渡し」と呼ばれ、現在、五百五十万本のコスモス園となっている

他倶楽部案内

●●●● 清交社の午さん講演会のご案内

会場：ANAクラウンプラザホテル大阪 五階ガーデンルーム
時間：十一月十一日(火) 十一時三十分～十二時三十分

十一月一日(火) 講演「二〇二三年の国際情勢を展望する」 大阪フル研究所 主任研究員 高原 剛一郎 氏

十一月八日(火) 講演「指揮棒片手に世界を巡る」 素敵なエピソード 指揮者 守山 俊吾 氏

十一月十五日(火) 講演「ウクライナ情勢と日本のとるべき政策」 元国連大使、国際基督教大学特別招聘教授 吉川 元偉 氏

十一月二十二日(火) 講演「未定」 元ブックオフ代表取締役社長 橋本 真由美 氏

十一月二十九日(火) 講演「未定」 京都大学大学院医学研究科 腫瘍薬物治療学講座 教授 武藤 学 氏

※状況により中止になる場合があります。

◆出席ご希望の方は、当倶楽部事務局(三瓶)に二日前までにお申し込み下さい。

◆会費/三、〇〇〇円(食代・消費税込)後日精算前日の午後五時以降は、キャンセル料が発生します。

☆ネクタイ着用